

第2回文化芸術推進基本計画推進委員会

議事要旨

日時：令和5年12月19日（火）
午後6時30分～7時45分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - 文化芸術の推進について
 - ① 講話 昭島市文化財保護審議会委員 白川宗昭氏
 - ② 意見交換
- 3 その他
- 4 閉会

配付資料

【配布資料】

- 1 文化芸術推進基本計画進捗状況について
- 2 文化芸術推進基本計画進捗状況に係る質問・意見について

出席者（敬称略）

委員長・・・新谷尚紀（昭島市文化財保護審議会委員）
副委員長・・・児玉 真（一般財団法人地域創造）
委員・・・大澤俊則（昭島市文化協会）、上野美樹（昭島市民会館文化事業協会）、上岡健人（昭島郷土芸能協会）、堀井真理子（一般社団法人昭島観光まちづくり協会）、本間ゆかり（公募市民）
事務局・・・永澤企画部長、村山企画政策課長、小森企画政策係長、磯村生涯学習部長、立川市民会館・公民館長

1 開会

委員長・・・ ただ今より、令和5年度第2回昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会を開会いたします。それでは、事務局より本日の資料について説明願います。

事務局・・・ 配布資料について説明

2 議題

文化芸術の推進について

委員長・・・ それでは、本日の議題であります「文化芸術の推進について」につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局・・・

議題としてあげさせていただきました、本日の講話及び意見交換について御説明させていただきます。

本委員会におきましては、計画掲載事業の前年度実績を踏まえた個々の評価に終始するのではなく、特定の専門分野で活躍する有識者を委員会にお招きし、10か年計画の中間年の見直し、次期計画の策定に向けた新たな発想につなげるような意見交換等が出来ればと考えております。

今回はその第1回の有識者といたしまして、昭島市文化財保護審議会委員白川宗昭先生をお招きし、広く文化芸術の推進についてお話しいただき、委員の皆様と意見交換をしていただきたいと考えております。

白川先生は昭島市福島町の廣福寺住職を務められているほか、昭島市史編さん専門員、史料調査員専門員、教育委員会教育委員、文化財保護審議会委員を歴任し、昭島市の文化、歴史に幅広い見識をお持ちでございます。

委員長・・・

それでは白川先生よろしくお願ひいたします。

白川講師・・・

ただいま御紹介いただいたとおり、私は本業としては廣福寺の住職をしています。若い頃から昭島の歴史編さんに携わっていましたので、歴史の話は多少できるかも知れません。文化や芸術についても多少勉強はさせていただいていますが、文化芸術という大きなジャンルとしては、これまであまり考えたことはありませんでした。本日は夢物語みたいなことを話すかも知れませんが、御理解を賜りたいと思います。

本日は文化、芸術活動の場所としての昭島が歴史的にどのような場所なのかということを簡単にお話して、それを踏まえて、次の段階の話をさせていただきたいと思っております。

私が大学生の頃、青梅の歴史家の講演を聞いたことがあります。講演の冒頭で、黒板にアルファベットのNという字を書いて説明を始めました。何かと思いましたら、Nはそれぞれの地域の文化の高低を表しているというのです。Nの最初の高い場所は江戸、そして下に降りてきたところは北多摩だというのです。そしてまた上がるわけですが、そこは西多摩であり南多摩、そして最後また下がった場所は山梨だと言うわけです。私はそれを聞いて愕然としました。要するに北多摩は文化がないということです。

八王子や青梅は昔から物資の集散地であり、経済的にも豊かな場所で、貧富の差もある、こうした緊張感のあるところでは文化が非常に盛んになる。しかし、北多摩は農家で緊張感もないし経済的にも豊かでないという説明をしていました。

私も昭島に住んでいて、こうした部分もあるかなと思いましたが、その後歴史の勉強を始め、昭島の市史編さんなどに携わると、当時私は20代から30代でしたが、昭島には本当に文化がないのかと様々な場面で考えさせられました。

古文書の調査で農家の土蔵に入ると、古い書付や掛け軸などが出てきます。こうした調査をしていますと、昭島に文化がないなんてことはあり得ないと思っていました。

本日は大正時代の昭島の地図を持ってきました。ご覧いただきますと、真ん中に既に青梅線が走っています。青梅線の北側を見ますと、ほとんどが桑畠と武蔵野の雑木林です。民家はほとんどありません。

南側は畠や雑木林が広がっています。それから桑畠がたくさんあるのがわかります。さらに南に行きますと、多摩川の河岸段丘や奥多摩街道に沿って集落が点々とあります。その南側は田んぼで、そのさらに南が多摩川です。これが昭島の原風景です。昭和になると軍事工場や昭和飛行機工業ができたりして、北側は基地に変わっていきます。

しかし、この地図の大正10年ぐらいまでは、土地利用という観点では、縄文時代ぐらいから大正時代まで、昭島はほとんど変化がない場所だったということがこの地図で分かります。

また、明治27年に青梅線が開通しましたが、昭島の集落を考慮しない形で、雑木林の真ん中に線路が引かれています。国策として日本が西洋に追いつこうとしていた殖産興業時代の話ですから、青梅の石灰石を取るための鉄道でした。

そうした意味で考えると、寒い村と書いて寒村と言いますが、昭島は当時寒村だったとも感じるわけです。地図の右側に記載している当時の人口の変遷を見ますと、大正9年の第1回国勢調査では昭島全体で人口は5,896人しかいません。世帯数は987世帯です。

私も文化が低いと言われるのも致し方ないのかなと思った時期もありましたが、人が住んでいる集落を中心に、昭島ではこの狭い市域にお寺がたくさんありますし、神社もそれぞれの村にありました。そしてそこには、それぞれ祭礼、お囃子、獅子舞などがあるわけです。また湧水が出たため、湧水を使った様々な風習もあります。教科書に掲載されるような有名な歴史はないかも知れませんが、地域の人々の生活というものはしっかりと残っています。そうしたものに焦点を絞って、昭島の歴史、文化を考えていく必要があると、市史編さんなどを通じて私は痛烈に感じました。

市史編さんに携わる中で、市役所の担当者から当時の市の広報紙で昭島の歴史について連載をしてほしいと依頼されました。いろいろ考えまして、道端に転がっているような庶民の歴史であっても、それにも命があり、当時の人々の生活、苦しみ、営みがあるのだということを書いてみようと思いました。市の広報で1年半ほど連載し、それをまとめた「路傍の文化財」という本を出しました。

昭島の文化を考えますと、風土、歴史に立脚したものを考えていくことが、私は筋としていいのではないかと思います。素晴らしいものばかりを求めるのではなく、市としてその地域の市民の文化活動を推し進める、助長する姿勢で臨んでいく必要があると思っています。

文化芸術を行政が引っ張っていくことは私としては考えにくいわけでして、市民が主役となって活動しなければならない。行政は市民が行う文化的な営みを後押し、市民がどこまでも主役だということで場所の提供、機会の創出、情報提供などが市の一番大事な仕事ではないかと思います。

市民の文化活動について考えてみると、本当に多岐にわたるわけです。少し集約して考えると、まず音楽、美術を創造する、何か物を創り出すという創造的な営みがあると思います。また、歴史や自然について調べてみたいという知的探求や、音楽鑑賞、美術鑑賞も一つのジャンルとしてあります。それから歴史的、伝統的なものだけではなくお囃子や宮沢太鼓などの伝承というものもあります。

文化財の保護、啓蒙もあると思うのですが、これはどちらかというと行政が

主導になるべき部分が多いかと思います。

いずれにしても、市民が主役の文化活動を支援し、環境を整備することが、この市のあり方だと思います。

そのためには予算などの課題はあるかと思いますが、行政自体が文化芸術を大切にして、理解、尊重して政策を進めていく姿勢が必要だと思います。

昭島は寒村だと言われないように、ぜひ取り組んでほしいと思っています。

以上のようなことを前提として、本日配布されている基本計画の進捗状況の資料について、私が思うところを具体的に申し上げたいと思います。

まず資料を見て感じたことは、令和4年度の「実績」と「各事業・取組の効果又は課題」と記載がありますが、効果と課題が一緒になっています。事業が終わって、課題や反省が必ずあるはずですので、一緒に記載するのではなく、別に記載して課題を明確にしていく必要があると思います。計画の見直しのためにも、課題や反省を明記して、蓄積し、見直す時にしっかりと捉えることが大事だと思います。

それから大きな視点として、主要政策の実績や取組・課題ではなく、市民のそのニーズに対して、どれだけ効果があり、どのような課題が残っているのかを認識する必要があると思います。

文化芸術推進基本計画には市民アンケートの結果が記載しており、様々な意見が出ています。これらを参考にし、常に意識しながら、課題を解決するためにどうしたらいいのかという姿勢を持って取り組んでほしいと考えています。

ここからは、資料に沿って一番上の基本政策①「文化芸術活動への支援」から申し上げたいと思います。

2つ目の施策に、「団体紹介カードの設置」があります。これは素晴らしい事業だと思いますが、私は団体だけではなく、個人、私は「マイスター・シンクタンク」と呼びたいのですが、市内には例えば菊作りの名人やシクラメン作ったらこの人が一番だとか、そうしたマイスターがいるはずです。

公表できるかどうかは別問題として、市民から問い合わせや相談があったときに、団体を紹介するだけではなく、もう一步進めて、個人を紹介するようなことを「マイスター・シンクタンク」という言葉で、できたら面白いなと思っています。

次に、「文化芸術に関わる活動拠点の提供」については、市民会館や市立会館など既存の施設が記載していますが、市内に数多くある空き家を稽古場や、展示スペースなどの居場所作りに活用できないかなと思います。パフォーマンスの活動をする場として市の所有している施設にプラスして、考えていただいたらと思います。居場所作りは、教育や福祉の分野でも課題になっています。子育て世代や高齢者、子供たちの居場所と併せて、文化芸術でも何かできないかと感じております。

併せて、例えば、神社、寺院の庭あるいは本堂などの宗教的な場所についても、パフォーマンスの会場として使用できる場合もあると思います。市の所有施設以外の活用を考えていく方が豊かな市民活動ができると思います。

次に基本施策②「文化芸術に接する機会の充実」の中に「武藤順九彫刻園の運営」があります。武藤順九氏の彫刻が自然の中に展示しております。オーナーの許可がもちろん必要だと思いますが、開放して何か事業ができない

かなと思います。屋外ですから制約がありますが、彫刻の展覧会や絵画展などに活用できればと思います。

もう一つは多摩川の河川敷です。国が管理しているため課題があると思いますが、キャパシティとして、考えた方が豊かでいいと思います。

また、先ほど申し上げたように、昭島の北部には雑木林や公園があります。そこで人が集まるような仕掛けを市が主導でも、市民が主導でもできたらいいと思います。そうしたことでも武蔵野の風土を皆さんに伝えることもできるし、生かすことができると思います。

また多摩川については、昔から多摩川で魚を獲って生活の生業にしてきた文化があるわけです。そこでフェスティバルのようなことができれば面白いと思います。くじら祭を昭和公園で開催していますが、素朴に考えると、アキシマクジラは八高線の鉄橋下で発見されたわけですから、河川敷でくじら祭を開催する方が説得力はあると思います。市としては商業振興という意味もあり、昭和公園で開催していると思いますが、文化活動の一環として捉えるならば、河川敷で開催しても面白いと感じます。

次のページでは、小学校、中学校のコンクールなどが掲載されていますが、デジタル化を進め、市のホームページで動画配信するなどの姿勢が大事だと思います。

「市民会館自主文化事業の実施」につきましては、私も以前理事や委員を務めていましたが、収益なども考える必要があり、演歌やクラシックなど様々な分野に取り組んでいます。しかし、今はアキシマエンシスの体育館など新しい施設ができているわけですから、住み分けすることも大切だと思います。例えば自主文化事業では、クラシックを中心を開催し、アキシマエンシスの体育館では子供向けの催しを開催するなど、様々な部署が連動、提携し、取り組むことが必要だと感じます。

「大学等教育機関との連携」については、アキシマエンシスに鯨の彫刻が展示されています。先程マイスタートインクタンクと申しましたが、こうした学生を登録して、例えば市民ニーズに合った文化的活動や教室の開設を後押しするなど、もう少し大学との関係を深めていく必要があると思います。

次に基本施策③「伝統文化の継承と文化財の保存・活用」の「郷土資料室・郷土資料展示室の運営」については、アキシマエンシスが開館し、郷土資料室でデジタルアーカイブを実施していますが、もっとコンテンツを増やす必要があります。また、エンシスの資料室は十分周知できていますが、校舎棟の展示室については説明不足、PR不足の部分があると思います。

「伝統芸能の後継者の育成」については、補助金を出しているだけというように見えます。そうではなく、後継者育成をしっかり考え、学校などとの連携や他自治体の視察など後継者育成とやり方はたくさんあると思います。こうしたことを加味していく必要があると思っています。

「地域の文化財の保護、保存」については、少し調査が足りていないと思います。様々な文化財を調査し分析して、保護する、指定文化財にするという流れがありますが、最初の調査がなかなか進まない状況があります。

「文化財資料デジタルアーカイブの推進」については、いい試みだと思います。コンテンツを作るには、お金も時間もかかると思いますが、増やしてほしいと思っています。

最後に、基本施策④「多様な主体と連携した文化芸術活動の促進」についてですが、私も強調したい部分です。

「関係団体、企業等との連携の促進」については計画の27ページに記載がありますが、昭和の森芸術文化振興会、観光まちづくり協会、文化協会、市民会館、郷土芸能協会、文化財保護審議会などを合わせてコーディネートするようなシステムを作り、総合的に対策をしてほしいと思います。それぞれの市の所管が違うわけですが、同じような事業を実施している場合もあります。市の部局も合わせて、ネットワークを作っていくということが求められていると思います。ぜひ実現に向けて頑張ってほしいと思っています。

進捗状況の資料に沿って私が感じた部分について申し上げた次第であります、ぜひ昭島市は文化の街だという気概を持って、昭島に文化がないなんて決して思わず、素晴らしい街に、文化的な街になりますように、皆様にお力添えいただきたいと市民の1人としてお願いを申し上げたいと思います。本日はありがとうございました。

委員長・・・ありがとうございます。それでは、今の白川先生のお話を受けて、皆さんに一人ずつ順番に御意見、御質問等を伺いたいと思います。

上岡委員・・・個人でもマイスターがいるというお話について、非常に面白いと思いました。私たちの町内会ではお囃子をやっていますが、郷土芸能まつりで私達のお囃子を見て、やってみたいという子どもがいました。何かをやりたいと思うきっかけは、ざっくり言うとかっこいいとか、憧れがあるとかそうしたものだと思います。披露する場所や情報を提供する場面があることが大切だと思います。

私が小さい頃は将来何になりたいかという時に、電車の運転手や、野球の選手など憧れが大きかったと思います。全く見たことがない職業はあまり思いつかないと思います。

ですから、個人であってもマイスターがいて、かっこいいなと思えるようなものがあるということは、面白いと思いました。

白川講師・・・武蔵村山市ではマイスターの登録をやっています。状況を聞けば、どのようなことをしているのか分かるかと思います。

堀井委員・・・武蔵村山市でマイスターの登録していることは私も承知しています。武蔵村山市でうまくいってるのであれば、取り入れてもいいし、うまくいってないのであれば、仕組みの問題なのか人の問題なのかということも含めて検討してもいいと思います。どこが立ち上げるのかという問題もありますが、考え方としてすごく面白いと思いました。

また、空き家の活用については、今本当に空き家が増えている中で、活用できればいいなと思いますが、基本的に空き家は市の所有ではなく、個人や不動産会社が委託を受けて管理している物件です。空き店舗も含めて、使用する場合は所有者に原状復帰して返す必要があるなど様々な問題がありますが、活用ができたらしいと思います。活動場所に困ってる個人や団体は非常に多く、活動したいが場所の予約ができなかったとか、本当は毎週活動したいが場所が確保できないから月2回しか活動できないという団体も多いと思います。こうしたことを見

と民間が一体となってできればいいと思います。

委員長・・・ありがとうございます。中間に入る人の信用がなければ、悪意のある業者に騙される懸念もあります。市の力というのは信頼だと思います。市役所からの紹介なら貸してもいいということもあると思います。市の公の力を縁の下から貸していただければと、私も思います。貴重なお話ありがとうございました。

上野委員・・・私が活動している宮沢太鼓は、諏訪神社の神楽殿の中で太鼓の練習をさせていただいています。毎年夏の祭りでは、お披露目する会が神社で行われています。それ以外にも諏訪神社に来るお参りに来る市民の方はたくさんいらっしゃいます。中には毎週通っている方もいらっしゃいます。その中で神社にお参りに来るだけではなく、少し太鼓を叩ける機会があればいいなと思いました。

イベントで太鼓の体験コーナーを用意すると、たくさんの方に御参加いただけます。少しでも体験すると、太鼓の音を聞くと元気が出るなどの意見をたくさんいただきます。ぜひ実際に触れて感じてもらいたいなと思いました。例えば、市内を散策するイベントの参加者が諏訪神社の湧水を見に来た際に、和太鼓が体験できるような企画を盛り込んでみても面白いと感じました。

太鼓は誰でもできるのですが、その扉を自ら開きに行く方はすごく少なく、実際に太鼓を見て、私も活動したいですという方が多いです。太鼓に限らず、様々な芸術文化が昭島市にはありますので、市民の方が参加しやすいきっかけがあれば、芸術文化活動がより活発になると思います。

大澤委員・・・市役所の正面玄関の脇にプロの芸術家の作品を展示しているスペースがあり、神楽面のお面が展示されています。私は個人的に神楽面を作る団体に入っていたことがあります、お面を作っていたのですが、プロの作品を見ると素人の作品とは全く違います。

昭島市には芸術に関しても様々な分野のプロがいると思いますが、例えば神楽面を製作したプロの方を一般の人は全然知りません。それがお花の先生や歌の先生などでも同様だと思います。

例えば、作品を入れ替えながら、巡回して様々な場所で展示するようなことができればいいなと思います。市役所の展示スペースも定期的に作品を入れ替えて多くの方に見てもらえば面白いと思っています。こうしたことを期待しています。

副委員長・・・マイスターの話はすごく面白いと思います。行政は基本的に団体としか付き合わないので、新しい事業を始めると、その関係団体とばかり付き合うことになります。

私は音楽が専門ですが、素晴らしい音楽家が1人その街にいても、それを応援する方法を持っていないことが行政の足りない部分だと思います。こうした人々は素晴らしい作品を作ることができるだけではありません。文化は人と人の繋がりであり、人の問題なのですが、彼らは全国の素晴らしい人達を知っています。それが彼らの持っている一番大きな可能性だと思います。

今あるものをどうしていくかということも考えなくてはいけないし、大事だと思いますが、一方で、例えば神楽、美術、音楽、ダンスにしても、全国にはすごい人達がいて、その人達ができることがたくさんあります。最近こうした人たちが、孤高の芸術の世界だけにいるのではなく、地域とどう付き合っていくかを考

える時代になっています。

そうしたマイスターの力を使うことが大事だと思います。若い人たちにすごいものを見せた方がいいし、聞かせた方がいいと思います。そうでないと今の時代、情報はたくさん入ってくるので、若い人々は外に出てしまします。昭島という場所を経由して人をどう繋いでいくかを考えるべきだと思いました。

文化は公平性を求められるようで、実はあまり公平ではなく、どこかに力を入れていく必要があると思います。平均的にやってもうまくいきません。何を選ぶかは街が選べばいいのですが、そのリーダーシップのようなものが行政の中に必要だと思います。全国的に配置できていないので難しいかもしれません、行政の中に文化専門員が配置されるべきだと以前から考えています。

リーダーシップを取って、コーディネート、プロデュースができる人を配置して、方向性を示し、成功例を作っていくことが大事だと思います。「昭島モデル」を作れば、全国公立文化施設協会などに情報が広がる可能性があります。そうしたことを意識して、取り組んだ方がいいのではないかと思います。

資料の文化芸術推進基本計画進捗状況を見ると、今あるものをどうするかというように見えますが、ないものをどうしていこうかということが大事ではないかと思います。

本間委員・・・皆さんから作品を展示する場所や、活動する場所が少ないとお話しもありましたが、私も同じように思っています。

例えば、お寺や神社などはお願いしたら場所を貸していただける場合もあるのでしょうか。

白川講師・・・それぞれの神社やお寺の状況やイベントの内容によると思います。

副委員長・・・例えば毎週日曜日に借りることは難しいと思いますが、単発のイベントであれば、可能な場合もあると思います。私は10年以上、一般財団法人地域創造アウトリーチをしています。音楽家を学校やコミュニティに連れて行って、ただ演奏するだけではなく、コミュニケーションを取りながら演奏していくようなやり方をしています。通常はなかなか難しいですが、お寺で開催した経験が何度かあります。お寺は音響がいいのです。檀家さんにも声をかけて来ていただいたらしくして、お寺としてのサービスのようになっている場合もあります。様々な事例があると思います。

また、活動場所が確保できないのは土日だと思います。土日に空けて場所を開放するようなことも考えた方がいいと思います。

委員長・・・私の専門が民俗伝承の学問ですが、文化や郷土芸能の担い手や場所の問題も日本各地で起きています。

行政は近年人員削減されており予算も少ない状況です。どのように少ない予算でやるかというと人と市の信用力だと思います。それにより無償でも協力してもらえたりします。

豊かな体験を共有すると、例えば太鼓や笛がうまくできる子どもがいます。そこに少し火を付けると、団体に入らなくても活動を続けていくことがあります。

昭島市が目指すべきものは、予算は少なくとも、上手に公的機関の信用力を使って、人や場所をセットしていくマネジメントだと思っています。

皆さんおっしゃったように、マイスター的なことをできる人がいるのだと思います。

委員長・・・白川先生のお話や委員の皆さんの意見を聞いたうえで、事務局からも本日の成果等について、まとめてお話しいただきたいと思います。次に向かっての話題提供にもなると思います。

企画部長・・・事務局を代表してお話させていただきます。様々なお話をありがとうございます。昭島市としては、情報の集め方に課題があると感じました。また、様々な分野で活躍している方をどのように集めて、どう活躍してもらうかということも課題だと思います。

市としては、芸術文化について必要な予算は組んでいますが、例えばお祭りを開催すると決まった時に、どこに声をかけていいのか分からないということはよくあります。行政が丁寧に対応できるような仕組みができれば、市全体の中で少しずつ整理していくと思います。そうしたことで文化が育んでいくのではないかと思います。

委員長・・・この場にも良い先生方がたくさんいらっしゃいますので、声をかけて意見交換ができるればいいと思います。

副委員長・・・他の街の取組などの外の情報を集めることも大事だと思います。そうしたことでは私ども地域創造の設立理由の一つですので、利用していただいて、情報を集めてもいいのではと思いました。

企画部長・・・現在、来年の市制施行 70 周年記念用事業に向けた準備をしていますが、事業を実施する際に誰に頼んで誰を呼ぶかということに苦慮しています。最終的には人が大切なのだと思います。

副委員長・・・市民活動のような組織をベースにしっかりと置いて、新しいやり方で市民も行政も、お互い満足できている自治体もあります。そうした所に話を聞きに行ってもいいのかなと思います。

委員長・・・ありがとうございました。

3 その他

委員長・・・日程3その他について、事務局の方から何かございますか。

事務局員・・・本日配布させていただきました第1回委員会議事要旨案に関する御意見等につきましては、12月28日を目途に、事務局まで御連絡いただければと思います。

また、次回の委員会の日程でございますが、来年の5月以降に開催したいと考えております。日程につきましては、委員長、副委員長と相談させていただき、決定次第御連絡させていただきます。

4 閉会

委員長・・・以上で、第2回昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会を終了します。